

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100948		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七反野・1階		
所在地	名古屋市中村区七反野一丁目904		
自己評価作成日	平成24年1月12日	評価結果市町村受理日	平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成24年3月6日	評価確定日	平成24年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援をモットーに、ご利用者様が家庭で自然に暮らしているような気持ちや思いを大切に、コミュニケーションを取りながら日々の生活を有意義なものにして頂けるよう支援している。
また、敷地内の畑で四季に合わせた野菜を栽培し、収穫を楽しんで頂いたり、地域の様々な行事に参加させて頂く事で交流を深めて、地域との繋がりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

所々に畑のある静かな住宅街の中にホームは立地しており、近くにはスーパーがある。個々の能力をできる限り活かし、手を出し過ぎず見守りながら、自宅にいるようなゆったりと安らぎのある生活を支援している。「暮らし」が地域との相互関係のもとに成り立っていることを理解し、近隣との関係づくりや地域活動に参加している。盆踊りやイルミネーション観賞といった夜間外出も行っている。職員は年代層が幅広く、入居者とコミュニケーションを図りながら状態を細かく把握し、チームワークで介護している。手すりを利用して運動をしたり、むくみ予防に足台を使用する等ごく自然に機能訓練が行われている。管理者をはじめ職員は常に「自分が住みたい家とは？」を意識し、法人理念である「友とふれあう我が家があります」の実現を目指している。今後はさらに行事の参加等で家族との繋がりが深まり、尊厳と思いやりに満ち、笑いの絶えない暖かいホームの実現が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他に、事業所の理念を職員で話し合い作成し、各ユニットに掲示をしていると共に午後の業務前に唱和し共有している。	設立時に管理者と職員で「地域との交流を大切に」を柱に3項目にわたる独自理念をつくりあげ、各々が主旨を理解し実践に繋げている。立ち戻る原点として唱和し、現場のケアではグループホームが地域の一員であることの重要性を認識し、年間を通じて散歩に出かけ、笑顔で交流に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、管理者は月1回行われる町内会定期会に役員として参加している。 また、運動会や防災訓練や応急救護講習などの様々な町内行事に参加させて頂いている。	ホーム周囲の散歩を日課とし、地域の人と気軽に挨拶を交わしている。町内会加入で情報を得て、学区の運動会や盆踊り等地域の行事に参加している。消防団や交番とは協力体制を確認しており、こども110番も受託している。依頼があれば専門学校や高校のヘルパー実習を受け入れている。港区東部いきいき支援センター開催の家族教室で職員が「認知症ケア」講座の講師を務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入口や玄関に「こども110番」の看板を掲げている。また、介護相談の張り紙をして、地域の介護に悩んでいる方の役に立てるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方からの意見や地域行事の案内などをミーティングで話し合い、参加させて頂くなどしている。	いきいき支援センターの主任介護支援専門員の協力が2回得られ、町内会長、福祉事業関係者、入居者、管理者が参加し年に6回開催している。会議では入居者の現況、行事内容、研修報告等を行っている。東日本大震災を受け、繰り返し災害への情報や意見の交換をし、入居者を1階から2階へ誘導する避難訓練を実施した。また地域の協力の必要性も話題にしている。	運営推進会議はホームの取り組みを知ってもらい、地域の理解や支援を得るための貴重な機会であることから、家族へも参加を働きかけ、率直な意見交換、サービス向上に具体的に活かしていく取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港区事業者会に参加して、区役所及び区社協の方々と意見交換を行っている。また、認知症専門部会に参加して、地域の民生委員の方からも情報を頂き、サービス向上に努めている。	区へは生活保護者の報告で訪問している。港区事業者連絡会や年1回の認知症専門部会に参加し、区役所職員と情報交換しており、何かあれば相談できる関係にある。年1回開催の「介護フェア」では、持ち回りで企画の段階から携わり、参加者に介護に関する情報提供を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について充分理解をしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は午後6時から翌日午前6時まで防犯のため施錠を行っているが、日中は玄関の鍵は開放している。	「身体拘束廃止に関する指針」で入居者の尊厳と主体性の尊重を掲げ、拘束をしない介護に取り組んでいる。玄関と2階フロアの入り口は、安全や防犯面を考慮して18:00~6:00のみ施錠している。自由な暮らしの大切さを理解し、日中は開放し、リビングから庭へは自由に出入りでき、畑のある裏庭へは職員とともに出て、水やりをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待とは身体的虐待だけではなく、暴言や無視などの心理的な面にも注意を配るよう職員と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要性のある方に対して支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書や重要事項説明書について時間を掛けて説明しており、十分な理解が得られるよう心掛けている。また、不安や疑問点についてはその都度説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情・要望などを話しやすい環境作りに配慮をしている。ご家族様には、近況報告を行う中で、要望・意見などを伺うよう努めている。また、玄関に意見箱を設置し、どんな事でも伝えて頂けるようにしている。	法人開催の家族会への参加や玄関の意見箱は利用がない。職員は家族の来訪時に声をかけ、入居者の状況を伝えながらコミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。2カ月毎に発行される「フレンズ通信」は、多くの写真で埋め尽くされ、ホームでの暮らしぶりを知ることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設けており、月1回の法人の運営会議にそれを持ち込み反映している。また、年2回の人事考課表にて意見を記述出来るようにしている。	管理者は月1回の全体会議で職員と意見交換を行い、業務や介護への意見や要望は反映できるよう検討している。内容によっては法人の会議へ持ち込み、調整、改善が図られている。希望する休みや休憩時間の取得等、働きやすい職場環境づくりにも努めており、法人内のグループホームとイベントで交流が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は合同行事や研修会・事業所清掃などで頻りに訪れ、職員と会話をする機会を作っている。また、資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に職員が交代で参加をしている。また、研修で学んだ事は事業所内で勉強会を開き、職員の知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者会や研修会を通じて交流したり、当法人の他事業所との交流の中で意見交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査を入居前に行い、事前に利用者様・ご家族様の要望などを確認している。また、些細なつづきなども職員一同で共有して、統一した対応を行う事で不安や混乱の無いよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行ない、気になる事などがある場合は傾聴して受け止めるよう努めている。また、ケアカンファレンスの際は同席をお願いしたり、行事の際も呼びかけを行い、話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や相談がある場合は、他介護事業施設等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護者としての立場を踏まえながら日常生活を共に過ごしていく中で、学んだり助け合ったりという人間関係を築いて、時には喜怒哀楽を共有しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には積極的に会話をしている。行事などの参加も呼びかけをして利用者様と一緒に交流出来るよう努めている。また、ご利用者様についての情報を共有し、ケアについて話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの人などが気軽に訪ねて頂けるよう、開放的な雰囲気作りに努めている。帰宅などの支援も行っている。また、馴染みのある場所についてご利用者様との会話から聞き取り、外出行事として取り入れている。	入居前の情報、家族の面会を通じて馴染みの関係の把握に努め、家族の了解のもと、以前利用していた施設の方が訪問されたり、こちらからデイサービスを訪問することもあり、日常生活の中で個々に応じた関係性を継続させている。馴染みの場所へは外出行事で取り入れ訪れている。電話の使用は自由で、年賀状など手紙の準備や作成、投函も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の自由な時間に充分配慮しながら、孤立しないようレクリエーションや行事・クラブ活動などで交流して、楽しみを共有する時間作りに努めている。また、利用者様同士の助け合いも生活の中で日々見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様などからの相談などには、出来る限り協力させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位の支援を心掛け、日々の会話の中から希望や意見などを聞き取り、ケアプランなどに反映させて可能な限り実行している。	本人や入居者同士での日常会話、職員との1対1の時間を利用して意向を拾い上げ、得た情報やつぶやきを職員間で共有している。試行錯誤を繰り返す中で、支援内容が充実し、本人の意向に沿ったケアの提供に繋がっている。把握が難しい場合は無理強いせず、表情や本人が選択できるような問いかけを行い、職員間で話し合い、介護計画に反映させ、実行しながら入居者本位の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にバックグラウンド表を記入して頂いたり、趣味趣向をご利用者様も含めて話し合い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表に基づいたり、職員同士が一人ひとりの現状についてミーティングなどで話し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様にもカンファレンスに参加して頂き、近況報告も合わせて問題点やケアについて話し合っている。また、職員同士が話し合い、必要に応じたケアを早急に行えるように努めている。	家族には面会時や電話で意向を聞き取り、内容をケア会議の議事録に記録している。計画作成担当者が職員の気づきやケアチェック表の内容、課題、情報を基に入居者本位の介護計画を作成している。通常3カ月毎に、何か状態や状況に変化があれば随時、会議で話し合っている。職員の意見やケアチェック表等をもとにケアの提供状況を確認し、介護計画の継続、見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の他に、申し送りノートを活用して職員全員が把握出来るようにしている。また、ケアプランのチェック表を用いて実行内容を毎日確認・把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など、利用者様やご家族様と話し合い、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や職員からの働きかけで、様々な行事に参加させて頂いている。また、消防署や交番などに出向き、緊急時の協力体制を確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でご利用者様全員に提携医療機関の内科医による往診があり、訪問看護については毎週1回往診が実施されている。希望者は訪問リハビリやマッサージを受けている。他科への病院受診については、原則ご家族様に依頼しているが、要望に応じて事業所でも対応している。	入居者全員が提携医療機関の内科医による往診と訪問看護を週1回受けている。希望者は訪問リハビリやマッサージを受けることができる。専門医への通院は基本的に家族が行っているが、都合により職員が同行することもある。緊急時には24時間対応も可能になっており、入居者、家族、職員にとって安心の医療と介護のネットワークが整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を依頼しており、利用者様の健康管理や、健康面での相談・助言などに協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーや提携医との情報交換を密に行い、必要に応じた支援が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」を入居時に利用者様及びご家族様に説明をし、同意を得ている。提携医療機関は24時間対応可能な体制であり、週1回の往診や訪問看護を受け、健康管理に努めている。職員に看護師もおり、ご利用者様や職員の安心に繋がっている。終末期介護の経験はないが、ホームとしてはご家族様の希望があれば、出来る限り対応していく考えている。	入居時に重度化における医療サービス提供内容に関する指針を説明し、同意を得ている。終末期の介護経験は無いが入居者の状態や意思も変化することから、必要に応じて再確認し、入居者、家族から希望があればできる限りの支援に取り組みたいと考えている。入居者の状態等、日々の会話の中で対応方法などを話し合い勉強している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、提携医や管理者など連絡網の把握を徹底している。また、日々に会話の中で対応方法などを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、年2回防災訓練を消防署職員の指導のもと実施している。防災会議では段取りを決め、利用者様と一緒に訓練に参加をして頂き、反省会にて課題や対応策の検討をしている。また、マニュアルを整備・設備点検も実施している。災害時の備蓄品については、水や食料などを備えている。	定期的な避難訓練を年間計画に基づき年2回実施している。一人ひとりの入居者の状態を踏まえて、災害時の具体的な避難策を昼夜通して検討し、いざという時に慌てず確実な誘導ができるようにしている。スプリンクラーの設置やマニュアルの整備、設備点検が行われ、災害時における備蓄品も、食料や水、紙おむつ等3日分程、倉庫に用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入社時に守秘義務についての誓約書を交わしている。利用者様の部屋に入る際は必ずノックをし、声を掛けてから入るようにしている。また、管理者は日々の関わりの中で、利用者様への対応について話し合っている。	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、入居者の尊厳と権利を守るための基本であると考えている。新人職員には、入社時に「人生の先輩」である方々を介護しているということを教育している。トイレ誘導時の声かけはそっと耳元で行い、パッドやおむつ交換時は居室に誘導したり、トイレに誘導し戸を閉めることを徹底している。個々の呼称や声の大きさ、目線の高さなどに気をつけ、居室に入る時はノックし声をかけてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、自己決定を重視した支援を心掛けている。また、意思決定の困難な方は表情等から読み取り、意思を尊重出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの行動パターンや体調・希望などに配慮して、自己決定を重視した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の方に来て頂き、髪型は利用者様の希望に応じている。また、かかりつけの店があればご家族様に連絡をするなど、臨機応変に対応している。化粧品などの希望があればその都度用意させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、利用者様の可能な作業については一緒に行っている。献立は職員が作成しているが、日々の会話の中から懐かしい献立を伺うなどしている。また、可能な方はご自分で下膳して頂き、食器洗いも当番制で体調に合わせて行って頂いている。	献立は職員が考え、日々の会話の中から食べたい物を聞いて取り入れている。台所は広く開放的であり、入居者は食事の準備や配膳、片付け等、できることを行っている。畑で収穫した野菜が食卓に上ることもあり、食事の一連の作業を入居者と共に職員が行い、皆で食事を味わいながら入居者にとって食事が楽しいものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の把握を行い、主治医の意見などを踏まえて一人ひとりに合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び食後に声掛けを行い、口腔ケアを行って頂いている。しかし、利用者様によっては毎食後に行えず、起床時と就寝前の1日2回のみの方も見える。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄回数やリズムの把握に努め、失敗を減らせるよう声掛けや誘導で対応している。また、失敗にて自信を失わないように必要に応じて声掛けを行っている。	トイレでの排泄やオムツをしないですむ暮らしは、生きる意欲や自信の回復、そして食や睡眠等の身体機能の向上に繋がる大切な支援と考えている。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握するため、排泄チェック表を記入している。トイレ誘導の声かけもその人に合わせて行い、リハビリパンツとパッドだった入居者が布パンツになったケースもある。便秘になりがちな入居者には薬のほかに体操したり、散歩、水分補給を行い予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動を心掛けている。また、便秘がちな方に対しては、乳製品の摂取や水分補給を促している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排便リズムや間隔の把握にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきとしているが、要望があれば毎日入浴して頂いている。また、入浴剤を利用者様に交代で選んでいただき、入浴を楽しんでいただけるよう努めている。	入浴は午後から行い1日4~5名が入り、入居者は週3~4回入浴している。浴室にはリフトが設置され重度の方でも対応することができる。入浴は1対1で対応し、コミュニケーションの時間として大切にしている。入浴を拒否される方には、無理強いせず時間をおいて声かけやコミュニケーションを取る中で入浴意識を高めている。浴室からは、熱帯魚が泳ぐ水槽が見え、楽しく入浴できる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望や要望を取り入れながら、安心して休息して頂けるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき用法・用量を理解している。また、職員が確認出来るようにファイルにまとめている。内服薬の変更時は申し送りノートを用いて確認・把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表やバックグラウンド・利用者様本人の要望を取り入れ、好きな事や今までの生活で行ってきた事を出来る限り提供して、日々の生活を有意義なものにして頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望に対して、ご家族様の協力を得ながら出来る限り支援出来るよう努めている。また、日々の散歩や買い物・週1回の外出行事にて戸外に出かけられるよう支援している。	日常的な外出支援については、気分転換やストレス発散の良い機会と捉えている。一人ひとりのその日の体調に合わせ、近所に散歩に出かけている。週1回、外出行事が計画されており、喫茶店でコーヒーやランチを楽しんだり、図書館に出かけることもある。夜間の外出もあり、盆踊りや夕涼み会、イルミネーション観賞等の外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理や支払いが可能な方に関しては、ご家族様と相談のもと利用者様に行なって頂いている。しかし、トラブルを防ぐため大金は管理者が管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて自由に電話を使用させて頂いている。手紙についても準備や、必要に応じての代筆・投函などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルには、利用者様が生けた花や職員が自宅から持参した季節の花を飾っている。壁にも季節感のある飾り物や、行事や外出時の写真を掲示している。室温についても皆様の体調に配慮しながら調整している。	玄関にはエンドウ豆が花を咲かせ、季節の花がプランター等に植えられており、ほっと心を和ませてくれる。リビングには、テレビ、テーブル、ソファが適切に配置されゆったり寛げるよう工夫されている。入居者と職員と一緒に作った作品が多く展示され、外出行事の際の写真も掲示されている。テーブルの上に入居者が生けた花や職員が自宅から持参した季節の花が飾られ、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での区切りは無いが、ソファが設置されており、仲の良いご利用者様同士がくつろげるよう居心地の良い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の写真や名前が飾られ、分かり易い表示となっている。居室には使い慣れた家具や小物・テレビ等が持ち込まれている。ご家族様の写真を飾っている方もみえる。毎朝清掃を行い清潔を保持している。	居室入り口には、表札と入居者の写真が貼られている。居室は職員と一緒に清掃し、清潔に保たれている。自宅から持参したタンス、机、仏壇、写真等は、入居者の使いやすいよう配置している。使い慣れた家具に囲まれ、それぞれ個性を感じる部屋となっている。季節ごとの衣類、寝具の交換は家族や職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーになっており、壁側には手摺を設置している。また、通路も広く車椅子でもスムーズに移動が出来るよう配慮している。居室前には写真や名前を貼り、トイレは分かり易いよう張り紙をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100948		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七反野・2階		
所在地	名古屋市港区七反野一丁目904		
自己評価作成日	平成24年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援をモットーに、ご利用者様が家庭で自然に暮らしているような気持ちや思いを大切にして、コミュニケーションを取りながら日々の生活を有意義なものにして頂けるよう支援している。
また、敷地内の畑で四季に合わせた野菜を栽培し、収穫を楽しんで頂いたり、地域の様々な行事に参加させて頂く事で交流を深めて、地域との繋がりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他に、事業所の理念を職員で話し合い作成し、各ユニットに掲示をしていると共に申し送り時に唱和し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、管理者は月1回行われる町内会定例会に役員として参加している。 また、運動会や防災訓練や応急救護講習などの様々な町内行事に参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入口や玄関に「こども110番」の看板を掲げている。また、介護相談の張り紙をして、地域の介護に悩んでいる方の役に立てるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方からの意見や地域行事の案内などをミーティングで話し合い、参加させて頂くなどしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	港区事業者会に参加して、区役所及び区社協の方々と意見交換を行っている。また、認知症専門部会に参加して、地域の民生委員の方からも情報を頂き、サービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について充分理解をしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は午後6時から翌日午前6時まで防犯のため施錠を行っているが、日中は玄関の鍵は開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待とは身体的虐待だけではなく、暴言や無視などの心理的な面にも注意を配るよう職員と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要性のある方に対して支援できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書や重要事項説明書について時間を掛けて説明をしており、十分な理解が得られるよう心掛けている。また、不安や疑問点についてはその都度説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情・要望などを話しやすい環境作りに配慮をしている。ご家族様には、近況報告を行う中で、要望・意見などを伺うよう努めている。また、玄関に意見箱を設置し、どんな事でも伝えて頂けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設けており、月1回の法人の運営会議にそれを持ち込み反映している。また、年2回の人事考課表にて意見を記述出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は合同行事や研修会・事業所清掃などで頻繁に訪れ、職員と会話をする機会を作っている。また、資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に職員が交代で参加をしている。また、研修で学んだ事は事業所内で勉強会を開き、職員の知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者会や研修会を通じて交流したり、当法人の他事業所との交流の中で意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査を入居前に行い、事前にご本人様・ご家族様の要望などを確認している。また、些細なつづやきなども職員一同で共有して、統一した対応を行う事で不安や混乱の無いよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行ない、気になる事などがある場合は傾聴して受け止めるよう努めている。また、ケアカンファレンスの際は同席をお願いしたり、行事の際も呼びかけを行い、話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や相談がある場合は、他介護事業施設等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護者としての立場を踏まえながら日常生活を共に過ごしていく中で、学んだり助け合ったりという人間関係を築いて、時には喜怒哀楽を共有しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には積極的に会話を行っている。行事などの参加も呼びかけをして利用者様と一緒に交流出来るよう努めている。また、ご利用者様についての情報を共有し、ケアについて話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの方などが気軽に訪ねて頂けるよう、開放的な雰囲気作りに努めている。帰宅などの支援も行っている。また、馴染みのある場所についてご利用者様との会話から聞き取り、外出行事として取り入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の自由な時間に充分配慮しながら、孤立しないようレクリエーションや行事・クラブ活動などで交流して、楽しみを共有する時間作りに努めている。また、ご利用者様同士の助け合いも生活の中で日々見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様などからの相談などには、出来る限り協力させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位の支援を心掛け、日々の会話の中から希望や意見を聞き取り、ケアプランなどに反映させて可能な限り実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にバックグラウンド表を記入して頂いたり、趣味趣向をご利用者様も含めて話し合い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表に基づいたり、職員同士が一人ひとりの現状についてミーティングなどで話し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様にもカンファレンスに参加して頂き、近況報告も合わせて問題点やケアについて話し合っている。また、職員同士が話し合い、必要に応じたケアを早急に行えるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の他に、申し送りノートを活用して職員全員が把握出来るようにしている。また、ケアプランのチェック表を用いて実行内容を毎日確認・把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など、利用者様やご家族様と話し合い、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や職員からの働きかけで、様々な行事に参加させて頂いている。また、消防署や交番などに出向き、緊急時の協力体制を確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でご利用者様全員に提携医療機関の内科医による往診があり、訪問看護については毎週1回往診が実施されている。希望者は訪問リハビリやマッサージを受けている。他科への病院受診については、原則ご家族様に依頼しているが、要望に応じて事業所でも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を依頼しており、利用者様の健康管理や、健康面での相談・助言などに協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーや提携医との情報交換を密に行い、必要に応じた支援が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」を入居時に利用者様及びご家族様に説明をし、同意を得ている。提携医療機関は24時間対応可能な体制であり、週1回の往診や訪問看護を受け、健康管理に努めている。職員に看護師もおり、ご利用者様や職員の安心に繋がっている。終末期介護の経験はないが、ホームとしてはご家族様の希望があれば、出来る限り対応していく考えでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、提携医や管理者など連絡網の把握を徹底している。また、日々の会話の中で対応方法などを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、年2回防災訓練を消防署職員の指導のもと実施している。防災会議では段取りを決め、利用者様も一緒に訓練に参加をして頂き、反省会にて課題や対応策の検討をしている。また、マニュアルを整備・設備点検も実施している。災害時の備蓄品については、水や食料などを備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入社時に守秘義務についての誓約書を交わしている。利用者様の部屋に入る際は必ずノックをし、声を掛けてから入るようにしている。また、管理者は日々の関わりの中で、利用者様への対応について話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、自己決定を重視した支援を心掛けている。また、意思決定の困難な方は表情等から読み取り、意思を尊重出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの行動パターンや体調・希望などに配慮して、自己決定を重視した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の方に来て頂き、髪型は利用者様の希望に応じている。また、かかりつけの店があればご家族様に連絡をするなど、臨機応変に対応している。化粧品などの希望があればその都度用意させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、利用者様の可能な作業については一緒にに行っている。献立は職員が作成しているが、日々の会話の中から懐かしい献立を伺うなどしている。また、可能な方はご自分で下膳して頂き、食器洗いも当番制で体調に合わせて行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の把握を行い、主治医の意見などを踏まえて一人ひとりに合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び食後に声掛けを行い、口腔ケアを行って頂いている。しかし、利用者様によっては毎食後に行えず、起床時と就寝前の1日2回のみの方も見える。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄回数やリズムの把握に努め、失敗を減らせるよう声掛けや誘導で対応している。また、失敗にて自信を失わないように必要に応じて声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの運動を心掛けている。また、便秘がちな方に対しては、乳製品の摂取や水分補給を促している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排便リズムや間隔の把握にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきとしているが、要望があれば毎日入浴して頂いている。また、入浴剤を利用者様に交代で選んでいただき、入浴を楽しんでいただけるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望や要望を取り入れながら、安心して休息して頂けるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき用法・用量を理解している。また、職員が確認出来るようにファイルにまとめている。内服薬の変更時は申し送りノートを用いて確認・把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表やバックグラウンド・利用者様本人の要望を取り入れ、好きな事や今までの生活で行ってきた事を出来る限り提供して、日々の生活を有意義なものにして頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望に対して、ご家族様の協力を得ながら出来る限り支援出来るよう努めている。また、日々の散歩や買い物・週1回の外出行事にて戸外に出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理や支払いが可能な方に関しては、ご家族様と相談のもと、利用者様に行なって頂いている。しかし、トラブルを防ぐため大金は管理者が管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて自由に電話を使用させて頂いている。手紙についても準備や、必要に応じての代筆・投函などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルには、利用者様が生けた花や職員が自宅から持参した季節の花を飾っている。壁にも季節感のある飾り物や、行事や外出時の写真を掲示している。室温についても皆様の体調に配慮しながら調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での区切りは無いが、ソファが設置されており、仲の良いご利用者様同士がくつろげるよう居心地の良い空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の写真や名前が飾られ、分かり易い表示となっている。居室には使い慣れた家具や小物・テレビ等が持ち込まれている。ご家族様の写真を飾っている方もみえる。毎朝清掃を行い清潔を保持している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーになっており、壁側には手摺を設置している。また、通路も広く車椅子でもスムーズに移動が出来るよう配慮している。居室前には写真や名前を貼り、トイレは分かり易いよう張り紙をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に対して、家族様への参加について呼びかけを行っているが、参加に繋がっていない。	運営推進会議の内容を含め、改めて家族様に説明を行って、年間で一度でも参加して頂けるように呼びかけていく。	家族様へ毎月送らせて頂いている月間行事予定表に記載して呼びかけを行い、面会時についても会議内容を議事録を踏まえながら説明を行っていく。 また、会議の内容について、家族様からの意見を議題にするなど、より身近な会議内容にしていく。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。